

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮北中】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	教科での定着は差があるように思われるので、各教科ごとにスタディサプリや小テストなどをうまく活用してもらい、確認と反復をして、基礎・基本の定着を図っていく。また、生徒が自主的に探求していけるよう、他教科との繋がりを示すことで、興味付けや横断的な学習に結び付けて取り組んでいく。
思考・判断・表現	話し合いなどの場はこれまで通りに行っていく。そして、どの教科でも読み取りを強化し、意見交換などする際には、書き表す活動を重点的に取り組んでいく。また、国語科と連携をとり、「書くこと」そして、友達の意見から「読み取る」力を養っていけるよう取り組んでいく。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が図れていない。 <指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習活動が設定しにくい。	⇒ 「スタディサプリ」等を活用する。朝に学習時間をとり、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、生徒自身の課題となる部分に気づかせ、補充学習への取り組みを促す。【週に2回実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 記述や話し合いの活動の中で、自分の考えや意見があまり出てこない。 <指導上の課題> 子どもが自分のこととして捉え、思考するような学習活動が設定しにくい。	⇒ 生徒が振り返りを記入したり、自身の考えたことやその過程を話したり、文章にしたりする学習活動を取り入れていく。【単元の終わりごとに実施】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	① スタディサプリの実施については概ね達成することができた。市の学習状況調査や、学校での定期テストでも、その成果の一部を見ること出来た。しかし、生徒自身が教科を選択し実施するため、教科によって片寄りがあることもあった。そのため朝の学習時間だけでなく、教科ごとに授業内や家庭学習などで適切に行っていく必要がある。
思考・判断・表現	B	各教科で活発な話し合い活動の様子が見られた。しかし、文章に書き表し、読み合うなどをする際に、誤字脱字、文章の構成、語句の使い方などの表現に課題が見られた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では全ての領域・評価において全国平均を上回っていた。しかし「短歌の表現技法」については、全国的にも正答率が低く、本校でも知識・技能の中では一番低かった。言葉の使い方により、どのような効果があるのか理解することに課題がみられた。そのため授業では短歌などの創作と鑑賞を行い、表現技法の力を伸ばしていきたい。数学において「B 図形」では国、県の平均を超えているが、正答率が他の領域より低かった。ここから文章を読んで規則性を理解し、解く力に課題が見られた。今後の授業では、授業で扱う課題を精選するとともに、問題の間われていることの説明をし、力を伸ばしていきたい。
思考・判断・表現	国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」と比べると「読むこと」の正答率が低かった。中でも本文の要約をすることに課題があるようであり、無回答率が高かった。また、解答において記述式の無回答率が多かった。自分の考えを文字に書き起こすことに課題があるようである。数学において、全国平均を上回ったものの「ことからの理由を比較して説明すること」が正答率が低かった。短答式の問題の解答率、正答率が高いため、今後の授業では話し合い活動と、記述の内容をいれて、自分の考えを深めながら、記述の力を伸ばしていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、数学、社会において、知識・技能の正答率は市平均を上回った。しかし、無解答率の割合が高かったのも知識・技能の問題であった。ここから基礎基本の定着がまだ不十分であり、解答ができなかったものであると考えられる。そのため、スタディサプリや小テストなどで既習を確認したり、反復させたりして、確実な定着を図っていく。
思考・判断・表現	各教科の領域の解答率は市平均を上回ることができた。特に社会は知識・技能より、思考・判断・表現の方が高かった。しかし、数学のみ市平均を下回る結果となった。授業では解き方の様々な方法を知るためにも、仕組みを説明し合うなどの話し合い活動を活発に行い、思考・判断・表現の力を養っていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	週二回のスタディサプリは概ね実施することができている。生徒が自信の課題となる教科に取り組むことができている。	変更なし
思考・判断・表現	B	毎時の振り返りや、解答の解説、時事問題についての意見交換など、教科ごとに応じた形で実施することができている。結果として、生徒から自発的に質問が出たり、生徒間で教え合う場面などが見られるようになってきている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)